

ウオッチ

2015 桐生

初心者対象に毛針作り

両毛漁業協同組合を母体に設立された「渡良瀬川水系魚ふれあい振興会」(代表・中島淳志組合長)が稚魚放流や釣り教室を通じ、河川や自然環境を守る啓発活動に力を注いでいる。21日には初心者を対象とした毛針作り教室を開き、水生昆虫や魚の生態への理解を深めた。

水生昆虫を採取

桐生市の川内公民館で行われた教室には県内各地から26人が参加した。溪流釣りを趣味とする大

人だけでなく、自然体験活動に取り組む女子学生もおり、10代から60代まで幅広い年齢層が集まった。参加者はまず公民館脇

を流れる山田川で毛針のモデルとなる水生昆虫を採取。石をひっくり返して石裏にひそんでいたカゲロウやトビケラ、カワゲラの幼虫を網ですくった。捕まえた後は、水槽に入れてモンカゲロウやマダラカゲロウといった個別の名前について説明を受け、それぞれの生息に適した水質を学んだ。

その後、「エルクヘア・カデイス」という鹿の毛を使った定番の毛針と、「パラシュート」と呼ばれる水面に浮く毛針作りに挑戦。専用の道具を使って鳥の羽根や鹿の



石の裏にひそんでいる水生昆虫を捕獲する参加者

釣り通して自然に目

毛を釣り針に結び付け、自分だけの毛針を完成させた。

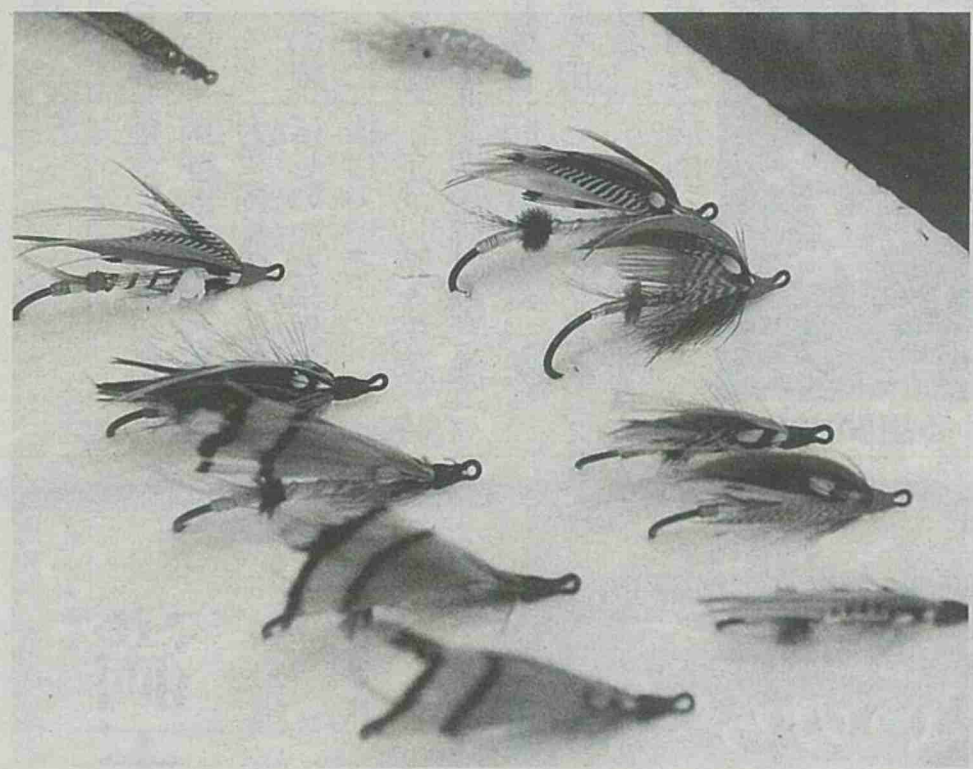
川に親しむきっかけに

「意外と簡単」
管理釣り場でニジマス釣りをしたことがあると

いう関口雅輝君(玉村上陽小6年)は「やってみると意外と簡単。今度は自分だけで毛針を作ってみたい」と興味津々の様子。地域の自然体験学校でボランティアとして活

動する大平千尋さん(東京福祉大1年)は、水生昆虫や魚への知識を深めるために仲間と参加した。「川に虫がいることは知っていたが、実際にはどんな虫がいるのかまでは分からなかった。今度ぜひ毛針釣りをしてみたい」と笑顔を見せた。

毛針作り教室は昨年から実施している「フィッシング・カルチャー・スクール」の一環。次回は8日にフライフィッシング教室を開く予定となっている。中島組合長は「川で水生昆虫を見つけ、昆虫を模した毛針を作ることと河川環境に目を向けてもらい、川に親しむきっかけになればうれしい」と話している。



美しい毛針の数々



中島組合長から毛針作りのポイントを学ぶ参加者

両毛地域